

主体的な組立体操 ～5歳児の創作組立体操を通じて～



学校法人 庄内神社学園
幼保連携型認定こども園
庄内こどもの杜幼稚園

発表者: 石塚 貴史
塩飽 和也
岩崎 巧
西村 久美

庄内こどもの杜幼稚園概要

<地域>
○大阪府豊中市の南部に位置する(下町)
○神社の学園

<保育目標>
○神をうやまい、親や自分を取り囲むまわりの人々を大切にすること
○基本的な生活習慣、態度を身につけた子ども
○心身ともに健康的で、ねばりのある子ども
○きまりを守り、みんなと仲良くできる子ども
○よく考えて工夫し、自分から進んで行動できる子ども
○情操豊かな心を持った子ども

<在園児数>

平成28年7月現在 計173名

クラス	1号籍	2・3号籍
0歳児 (6か月～)		9
1歳児		10
2歳児		13
3歳児	38	15
4歳児	31	14
5歳児	24	19
合計	93	80

※3歳児～5歳児は、1・2号籍混合クラス





実践概要

- 昨年度より、子どもたち主体の活動になることを目指して、「組立体操」から、子どもたちが話し合いながら作り上げる「創作組立体操」に取り組んでいます。
- 「創作組立体操」は過去の「組立体操」と何が違い、何が子どもの育ちに寄与するのか、今までの当園の取り組みをもとに考察します。

運動会(5歳児)の変遷

競技内容	過去	現在
リレー	走る順番やチームを保育者が決めていた	走る順番やチームを子どもが決めている
組立体操 (一昨年まで)	グループや位置を保育者が決めていた	グループや位置を子どもが決めている 様々な技を選びから考えている
その他	競技を廃止し、お手伝い隊(司会、道具出し等)など何が必要かを子どもたちが考え、実施する活動)を実施	



← 競技の廃止



↑ 競技・道具出し

過去の組立体操の様子

【動画】

過去の組立体操では・・・

- 決められた形のため、対話をする必要もなく、いかに早く上手にダイナミックな技を決められるかが求められていた。
- 「痛くても我慢できれば」「10秒以内に(早く)作れたら」「返事以外は喋らずにかっこいい顔でできれば」
→OK

7

過去の組立体操のメリット・デメリット

- <メリット>
 - ・活動のメリハリがある
 - ・保育者が子どもの動きを予測する事ができる
 - ・見栄えのある技を見せられる
- <デメリット>
 - ・様々な役割を経験する事が出来ない
(大きい子どもは上に乗れない等)
 - ・臨機応変な動きができない(当日休みが出た場合など)
 - ・失敗をマイナスとして捉えられる
 - ・自分たちで考えて行動できない、臨機応変さ、人間関係が取れない
→当園の方針にあてていない

8

創作組立体操を通した園の願い

- 自分たちで技の形や、名前、立ち位置などを対話の中で決めていき、子どもたちの主体性が見られる活動にしていきたい
- もっと子どもたちの思いや個性が詰まった活動にしていきたい

9

平成27年度より創作組立体操を取り入れる

- 昨年度の取り組み
 - ・子どもたちと作ったお話を基に表現あそびのように取り組む
 - ・体育講師から教えてもらった基礎的な技に対し、話に沿った名前を子どもたちが対話の中で決めていく
 - ・6人技の部分は保育者からテーマを伝え、子どもたちだけで話し合い、技の形・名前を決めていく

10

昨年度の創作部分の映像 (テーマ「乗り物」)

○【動画】

11

昨年度を基に、今年度の取り組み 5月12日 GO&STOP



12

☆GO & STOPを通して☆

『はしる”と”とまる”を繰り返し、1人で色々なポーズ』

- ～体を使って表現、色々な部位を強化～

『止まった時に、2人組、3人組を作り、ふれあいあそび』

- ～仲のいい相手のみならず、色々な相手と～

『相手と体の部位をくっつける』

- ～相手の力、からだ、重み、温かみを感じる～

13

5月25日 各クラスで



☆創作組体序章☆

『2、3人の少人数でプチ創作組体』

- ～相手を感じながら、身体表現～

『「まいど」「いらっやい」「おおきに」「まいどあり』

- ～組体屋さんとお客さんのやりとりの誕生～

『“これだけは！”組体屋の社員研修！！』

- ～土台や見せ方の基本を伝授～

15

6月2日 年長合同で技作り いろいろな技が生まれました



16

☆2クラス合同で☆

『ここに来てやっと、基本的な技の練習』

- ～2人組“お山”“すべり台”、3人組“にじ”“タワー”～

『クラスの垣根を越えて創作・・・』

- ～初めての相手もちろん！心を動かして～

『他の人を見る経験』

- ～人のふり見て、我がふり直せ！？～

17

7月14日 技作り（6人組）合同で



☆6人組でいろいろ・・・☆

『6人組ベースで、違う角度からオーダー』

- ～で～きたできた！な～にができた！？～

『なんやかんや、の、あーだこーだ』

- ～6人寄れば文殊の知恵！？～

『よりよく見せるには！？』

- ～子どもも大人も貪欲に！一流組体屋を目指して～

19

創作組立体操を進める中で、
組立体操と異なる子どもの姿

- ・立体を作るなど技術的な発想がない。
- ・メリハリがつけにくい。(流れが出にくい)
→大人がもっと対話しながらコーディネートする
- ・子どもたちの見通しが持ちにくい
→様々な人間関係で助け合いで見通しを持てる？

20

今年度創作組立体操を進める上での 保育者・体育講師の配慮事項

- お店屋さんを発展させ、本番の流れを決めていく
- 創作組立体操と既存の組立体操のバランスをどうしていくか
- 遊びの中で、子どもたちがグループ・役割をどう決めていくか

21

自分たちの考えた技を通して、 危険な事を体育講師が伝えていく

- ・子どもたちが、技を作る中で、危険があれば技を他児にも見せ伝える
(この場合、膝の上はX)

- ・体育講師や保育者は、子ども達の壁となる



22

考察

「創作組立体操」は、
過去の「組立体操」と何が違い、
何が子どもの育ちに寄与するのか

23

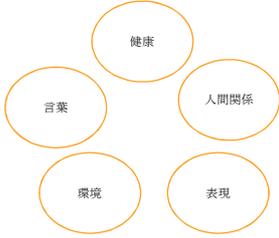
創作組立体操をやってよかったこと

- 個人差や、加配の子どもが入った際に臨機応変(その子どもの難易度に合わせる)に対応できる。
 - ・失敗したときに、リカバリーの工夫がしやすい。
 - ・普段から話し合いで決めているので、休みが出た時などの対応がスムーズ
- 様々な相手と、対話を通して形づくり経験ができる。
- 子どもたちがストーリーや技を考えていたから、組立体操に對して意欲がある
- 保護者への子どもの育ちが伝えやすい、見せやすい。
 - ・子どもたちのありのままを見てもらえる。

24

五領域

幼保連携型認定こども園 教育・保育要領を基に、創作組立体操を考察



25

健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養う。

・既存の組立体操は、形が決まっている為徐々に意欲は落ちていく

・創作組立体操は、最後まで完成しないからこそ楽しみがあり、意欲が高まっていく。



人間関係

◦ 他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。



27

人間関係

人間関係の深まり

・様々な相手と対話を通して形づくり経験ができる。

その場で、何人かの他児と対話を通して技作りをすることで、

→一人ではできない。話し合い意思疎通・協力ができないと進める事が出来ない。



環境

◦ 周囲の様々な環境に、好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

・遊びの中で、『まいど』→『いらっしゃい』『おおきに』→『まいどあり』

・体育あそびで始まったお店屋さんという設定が、普通の保育でもよく見られる

・普段の遊びと体育遊びが繋がっている

29

環境

臨機応変さ

・失敗したときに、工夫がしやすい。

・普段から話し合いで決めているので、休みが出た時などの対応がスムーズ



30

環境

試行錯誤する力



言葉

- 経験したことや、考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞くことする力を養う。



32

『なんの技でしょう?』



A.飛行機

33

表現

- 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

→身体能力だけではなく想像力や、この技は出来る?出来ない?を子どもたちで考えられなければならない



- 創作組立体操を行うには、普段の保育の積み重ねが必要。
- 過去の組立体操に比べて、五領域のすべての領域に創作組立体操はより関わってくる

35

職員間での創作組立体操の情報共有

- 我々は「臨機応変」「試行錯誤」「人間関係の深まり」「意欲」が育ちとして見られたことに気が付いた。

その考察を、過去の組立体操と、現在の創作組立体操を知っている職員内で話をしたところ・・・

→普段の保育との繋がりの多さに気が付く

36

はたして行事の取り組みだけで育つのか？

- 自園の保育は、普段から対話を大切に考えて保育を進めています。
子どもたちが、主体的に遊びを見つけられるよう保育者も見守り、関わっています。

そんな中で、行事との繋がりを感じられた普段の遊びを紹介したいと思います。

37

普段の保育で・・・

物事を決める際には子どもたちだけで決めることが多い。
保育者は見守りながら、必要に応じた援助をしている。↓



↑普段の遊びの中で他児と話し合いながら自分たちで使うあそび道具を作っている様子

38

お寿司屋さんごっこ

•遊びの中で、『まいど』→『いらっしゃい』『おおきに』→『まいどあり』という組体操屋さんで、言っていたやりとりが、子どもたちから自然と出た。
体育遊びの中で、保育者に言われた言葉ではなく、体育講師や保育者と組体操屋さんという遊びを楽しんでいたからこそ出た言葉。



まとめ

- 既存の組立体操と、比べると子どもたちの創造性や主体性が育っていると実践を通して改めて気付いた。
- 行事だけでなく、普段の保育との繋がりも大切である。
- 創作組立体操は五領域や当園の保育方針に準じた活動として提供できる。

40

ご清聴ありがとうございました

『おおきに』

41